

平成 28 年度奈良市結核対策評価推進会議 会議の概要

開催日時	平成 29 年 2 月 24 日（金）午後 2 時から 4 時 まで		
開催場所	奈良市保健所・教育総合センター 9 階 9-1 会議室		
出席者	委員	加藤委員、西脇委員、田村委員、根津委員、上野委員、【計 5 人出席】	
	事務局	佐藤理事、竹内次長、阪口課長、山本主幹、風課長補佐、奥村課長補佐、高橋 川崎 玉永 武藤	
開催形態	公開（傍聴人 0 人）	担当課	保健所 保健予防課
議題 又は 案件	1 奈良市における結核の現状 2 奈良市の結核対策事業について 1) 患者の早期発見のための施策 2) 適切な結核医療の提供のための施策 3) 結核の予防のための施策 3 平成 29 年度奈良市結核対策事業計画案について		
決定又は 取り纏め 事項	1 奈良市の現状について承認いただく。 2 奈良市の結核対策事業について承認いただく。 3 平成 29 年度奈良市結核対策事業計画案について原案通り承認いただく。		

議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等

1 奈良市における結核の現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>根津委員：県は H28 年に中和保健所で患者が増えたが、県全体で罹患率が下がったので、奈良市の罹患率が下がったインパクトが大きかったのではないかと。1 年遅れて予防計画が達成できた。喀痰塗抹陽性割合が減っており、早期発見されつつあるという印象を受ける。小児結核も H28 年は 0 人であり、大人の結核が減っていることで小児も減ってきていると考える。</li> <li>田村委員：いろいろ対策を行い、罹患率が減った。比較的菌陰性の患者が増え、早期に見つかっていると思う。喀痰塗抹陽性患者が減っていると言うことは、周りに拡散することが減るのでさらに患者が減るのではないかと思う。</li> <li>加藤委員：全国的には、罹患率は近年 5% 弱減少している。それぞれの地域によって、既感染率が違うので、ただ数字が減れば良いということではない。奈良市の場合は、H27 年は患者が多くよく見つかっていたということだと考える。非常に喜ばしいことだが、一喜一憂せず対策をしなければいけないと思う。</li> </ul>
2 奈良市の結核対策事業について	1) 患者の早期発見のための施策 <u>医療機関における早期発見の対策についての意見</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>西脇委員：症状が出ればまず、画像をとることがファーストステップになると思う。診療の中では、高齢者結核が多いので、結核の既往があるかをまず把握している。陰影を見たとき、結核を知っている医師は分かるが、若い世代の先生は肺癌や炎症を考えるのではないかと。見落としているということは、胸部 X 線画像は見ているが結核は見えないということ。医師に陰影の精査の中には、結核もあると知ってもらうことを啓発していく必要があると思う。</li> <li>根津委員：奈良県で実施している結核医療に関する相談事業は奈良医療センター玉置医師に委託。昨</li> </ul>

年は、病院・診療所等から、院内感染対策・LTBI 治療・結核治療についての質問が10件ほどあった。次年度も引き続き実施する予定。医療機関における感染対策、早期発見に関して相談事業を使って病院への公演事業にする等利用してほしい。

- ・田村委員：症状があり、レントゲン撮って影があった場合に、まずは、最近の先生方は肺癌・肺炎と誤ってしてしまう。誤嚥性肺炎と考えられた場合、一般細菌の検査はしても抗酸菌検査はしないことがある。頭の片隅に結核も疑うということが少しでもあれば、抗酸菌検査に進んでいけると思う為、そこを繰り返し啓発していかなければいけない。
- ・西脇委員：結核だよりや医師会の学術講演会等のいろんな機会の中で啓発できたらいいがなかなか難しい。結核だよりは、ペーパーのため、全てを理解しにくい為、講演会を行う等、場をもうけることが大事と思う。
- ・根津委員：県の医療機関対策として、NICN(奈良の院内感染看護師のネットワーク)で1年に1回は研修会を実施している。早期発見は医師の役割であるが、院内感染対策看護師も含めて、組織として、見落としを防ぐ体制作りが重要である。外来トリアージを行う方法について、看護師を中心に組織立てて行う取り組みを実施している。患者が発生した医療機関には、深く丁寧に介入し、病院での早期発見のための対策がうまくいっているか、病院と意見交換し、病院に対して提言をしている。奈良市の取り組みとして、医療監視と連携することは重要と思う。
- ・西脇委員：医師会主催の研修会は年2回実施しており、その中に、結核をテーマに取り入れてもいいが、先生が来てくれるか危惧するところである。内容としては、結核患者が高齢化していて、デイサービス等に行っている人が多くおり、早期発見のチャンスが非常に多い。一度研修会を設ければ、啓発には役立つかと考える。

#### 結核菌分子疫学調査についての意見

- ・加藤委員：疫学情報は非常に大事で、90年代にリストを作ろうとしたが、長くなり使えなかった。地域ごとにフォーカスすることが違うため、身近な事例からセレクトし、聞き取りしていく方がいい。現在、分子疫学のハンドブックを作成しており、年度内調査で、できたらPDFで活用できるようにしていく。予防指針に書かれているが、集団感染が疑われる場合は菌を回収するが、多くの場合、外来で見つかったことも多い為、最初の病院で菌を持っていないことがある。菌が必要になったときに菌が捨てられていたら困るのでまずは菌を収集し、確保できるようにすることが大切である。先駆的に取り組んでいる地域は、神戸や山形で、今まで見つかっていなかった感染経路が見つかった事例もある。

#### 総評

- ・加藤委員：高齢者が非常に多くなっており診断が難しい。診断が難しい1つ目の原因として、症状が出にくく、分かりにくいということである。予防指針に書かれているのは、結核以外で受診しているハイリスク者について、結核に感染している可能性があることを医療従事者に周知することが重要である。感染者かもしれない・免疫低下すると発病するかもしれないという目で見、非特異的な症状があっても念のため検査をすることが大事である。

診断が難しい2つ目の原因として、レントゲン像が非定型的だったり空洞病変を伴わない所見も多

いことである。キノロン系の薬を使うと症状が少し良くなり、結核ではないのではと勘違いしてしまう。そのため、菌検査をすることが大事である。その際に、良い喀痰をとることが非常に重要で、黄色い喀痰が出るまで指導する。それにより、菌陽性率が2倍になり、早期発見につながる。

診断が難しい3つ目の原因として、関心のないドクターにどのように情報還元するかということである。医療監視等の機会での情報提供することは非常に重要である。簡単ではないが、地道に情報を発信し続けることが大切である。

## 2) 適切な結核医療の提供のための施策

### 結核医療についての意見

- ・田村委員：院内 DOTS は 100%行えており、退院後も保健所の支援がある。困った事例もあるが保健所と協力し 100%実施できている。
- ・根津委員：H27 年の治療脱落は増えており心配していたが、失敗というより特異的な事例だと分かり安心した。DOTS は先進的にしているので全く問題はない。H28 年は A・B-DOTS が増え、熱心にされている。

県の地域結核医療体制は県の結核対策協議会で検討している。5年前に比べ、奈良医療センターを中心に県内の85%の患者を診てもらっている。その他、市立奈良病院や奈良医大病院等も含めて県内の医療機関で9割の患者を診てもらっている。昨年は小児結核、妊婦結核等なかった。透析・ICUの方の結核あったが、適切な医療につながっている。南奈良総合医療センターに感染症指定病床が、済生会中和病院に陰圧病床が、市立奈良病院も陰圧病症の1床で感染性指定病床ができた。今後、合併症の患者がいれば、排菌していない人を中心に診てもらえるようになってきた。

### 総評

- ・加藤委員：奈良市は従来より先駆的に取り組んでおり、感心している。  
1つ挑戦として、地域包括と結核対策を組み合わせ、在宅の人の患者発見、認知症の対応で地域包括と組み合わせて支援をする取り組みを行って欲しい。地域包括は市町村業務の為、県では上手くいかないことが予想され、中核市が一番うまくできるポジションにあると思う。

## 3) 結核の予防のための施策

### 外国籍の患者の結核対策についての意見

- ・田村委員：最近外国の患者が増えている。結核予防会で作成されたパンフレットや翻訳アプリを使って説明している。治療も大きな支障なくできている。
- ・根津委員：奈良県の外国籍患者は全国に比べ少ない。そのため、県として何か取り組みを行うところまでいっていない。県内の現場では確かに外国籍の患者が増えている実感があるので、今後加藤先生の意見を聞きながらできることを考えていきたい。まずは、どのような学校や事業所があるのか調べるところから進めていこうかと思っている。

### 総評

- ・加藤委員：全体に結核対策を適切に実施されている。患者発見の対策は、医療機関に対する対策が重要。日本語学校については、全国で数件集団発生が起こっている。日本語学校は、実態の把握が簡単ではなく、団体が決まってない、団体に入っていない等、ネットで探して

も全部日本語で記載されておらず、実態が把握できない。どこでも通訳に苦勞しており、病院では看護師が苦勞する事例がある。全体としてよくやっているし、罹患率も下がった。今後も地道に対策を続けて欲しい。

### 3 平成29年度奈良市結核対策事業計画案について

根津委員：高齢者施設への対策として、通所施設を利用している人が多いので通所施設への介入方法を考えてもらいたい。

資 料	資料1 奈良市結核に関する統計資料 資料2 奈良市の結核対策事業について 資料3 平成29年度奈良市結核対策事業計画案  参考資料1 奈良市結核だより 参考資料2 院内結核感染対策チェックリスト 参考資料3 奈良市結核対策評価推進会議規則 参考資料4 結核対策の最新情報
-----	--